

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

(報告)

議 員 名 : (財)全国母子寡婦福祉団体協議会 吉村マサ子

【開催趣旨・目的】

女性に対するあらゆる暴力の根絶に向けての運動が国をあげて展開されています。いま、母子家庭の増加の理由に多い、家庭紛争の要因でも深刻な DV 問題について考えることをテーマに開催しました。

【シンポジウム等の名称・テーマ】 女性に対する暴力の根絶に向けた研修討議

【日時】平成 24 年 12 月 9 日(日) 午前・午後 9:40~11:30 / 13:30~16:30

【場所】午前:日本教育会館(一ツ橋ホール) 午後:日本教育会館 707 会議室

【参加者数】

【プログラム】

午前:女性に対する暴力の根絶に向けた研修討議<パネルディスカッション>

開会挨拶 財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会 会長 吉村マサ子

来賓挨拶 厚生労働省 雇用均等児童家庭局家庭福祉課長 大鶴知之氏

パネルディスカッション

コーディネーター 信田さよ子氏(原宿カウンセリングセンター所長)

助言者 岩井宜子氏(専修大学名誉教授)

助言者 桐生正幸氏(関西国際大学教授)

パネラー S.Y 氏(DV 被害者)

パネラー M.U 氏(DV 被害者)

パネラー N.M 氏(DV 被害者)

パネラー M.K 氏(性犯罪被害者)

午後:必要な支援と抑止策を考える<グループミーティング>

開会挨拶 財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会 副会長 上田厚子

グループミーティング

助言者 <Sチーム> 丸山聖子氏(女性相談員)

助言者 <Rチーム> 桐生正幸氏(関西国際大学教授)

助言者 <Lチーム> 岩井宜子氏(専修大学名誉教授)

助言者 小野寺毅氏(警察庁長官官房給与厚生課犯罪被害者支援室理事官)

助言者 荻野英俊氏(警察庁生活安全局生活安全企画課課長補佐)

パネラー S.Y 氏(DV 被害者)

パネラー M.U 氏(DV 被害者)

パネラー N.M 氏(DV 被害者)

パネラー M.K 氏(性犯罪被害者)

閉会挨拶 財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会 副会長 鉄崎智嘉子

【参加者からの主な意見】

- ・実際の被害者の生の声を聴いて、ショックを受けたという声が多かったようです。
- ・許せない、なんとかしたいという気持ちが、多数の参加者に起きたようです。そして、どうすれば被害を抑止・軽減できるか、真剣な意見がアンケート等に寄せられました。
- ・年間行事の中でも特に思い出に残った、という声を聴きました。
- ・第2部は活発なグループ討議になり、また人の輪が広がって有益な機会でした。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）】

今回は、被害当事者の方に経験談や意見を発表していただきました。1人1人の人生に関わる深い話だったので、どうしても説明に時間がかかるなど運営に苦労がありました。その分皆様に大事なことが伝わったように思います。集客面では、生活的に楽ではない母子家庭の母等が時間と交通費をかけて都心に集まりました。同時に寡婦の方や、地元の加盟団体の献身的な力強いサポートをいただいて、また男女共同参画局の関係者の方々のご協力や、広報活動等全体を合わせて、盛会の内に終わることができました。ご登壇いただいた被害者の方は、「気持ちの区切りがついた」と仰って、帰りには晴れやかな笑顔を見せてくれました。その日、被害者から支援者に自らのポジションを変えられた彼女達が、これからも益々社会に良い気付きを与えてくれるのではないかと期待しています。

【今後の課題】

DVは犯罪となる行為を含む重大な人権侵害であり、また、外部からその発見が困難な家庭内で行われるため潜在化しやすく、しかも加害者に罪の意識が薄いという傾向があります。周囲が気付かぬうちに暴力がエスカレートし、被害が深刻になりやすい母子家庭等が会員である会としては、あらゆる情報提供、相談内容の多様化（法律・心理等）への対応、並びに関係行政機関・団体等と連携した取り組みが緊急な課題です。